

令和 6 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493400079	事業の開始年月日	平成18年12月1日
		指定年月日	令和6年12月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜上瀬谷		
所在地	(〒246 -0006) 神奈川県横浜市瀬谷区上瀬谷町56-4		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和6年12月5日	評価結果 市町村受理日	令和7年3月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・自立の方から重度の方まで、様々な介護度の方がいらっしゃいます。有する能力を最大限に活かしながら、一人一人に合わせたケアプランを作成し支援しております。</p> <p>・日々のレクリエーションでは、花紙や折り紙などを使って、季節を感じる創作物を作成したり、散歩がお好きな方は職員と一緒に緑豊かな風景を楽しませております。</p> <p>・四季に合わせたイベントを毎月3回以上行っております。ご利用者様と一緒に作るおやつや、お重でのお弁当提供、食にも力を入れております。</p> <p>・ご利用者様一人一人に寄り添い、優しさと笑顔を忘れずに支援しております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年12月13日	評価機関 評価決定日	令和7年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇理念の実現への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・事業所理念「笑顔、気くばり、安心」を掲げ、職員は利用者がいつも笑顔で安心して暮らせるよう利用者の気持ちを察し、笑顔でケアに当たっている。理念は事務室、スタッフルーム、リビング、階段の踊り場に掲示して、職員がいつでも確認できるようにしている。 <p>◇健康の増進と維持の支援</p> <ul style="list-style-type: none">・利用者は日常的に駐車場で外気浴をしたり近隣を散歩したりしている。近くの八幡神社には散歩の他、花見、紅葉狩り、初詣に行っている。・リモートによるALSOKあんしん体操、ALSOKあんしんヨガと、食事前の口腔体操を毎日欠かさず行い、利用者の健康維持と機能向上に取り組んでいる。 <p>◇豊かな年間行事</p> <ul style="list-style-type: none">・初詣、節分、お花見、夏祭り、クリスマス会、お正月会等四季折々の行事を行うことで季節を感じ四季を楽しむことを大事にしている。また、季節の果物でフルーツパーティを開いたり誕生日会を開催したりして利用者、家族、職員と一緒に楽しむ。 <p>【事業所が工夫している点】</p> <ul style="list-style-type: none">・家族との交流を増やそうと、運営推進会議開催日に家族会と行事を同時に開催したところ、15人の家族の参加があり、得た意見・要望を運営に反映した。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜上瀬谷
ユニット名	1 U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階2階スタッフルームに掲示し、業務の中で実現できるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は職員に、支援に迷ったら事業所理念「笑顔・気くばり・安心」を思い浮かべるよう全体会議、ユニット会議で伝えている。 ・常に理念を確認し実践できるように事務室、スタッフルーム、フロアに掲示している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんに来ていただき、音楽演奏を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入し、回覧板から地域の行事等の情報を得ている。 ・今年から開催した事業所の駐車場で夏祭りに、利用者家族や近隣の子供も参加し、提供した焼きそばや焼き鳥等を楽しみながら地域との交流を深めた。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症の方への支援・取り組み等の情報を発信しています。また、地域ケアプラザからの依頼で瀬谷第一地区WATボランティアに認知症サポーター育成講座の講師を行い、認知症を理解してもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、事業所の取り組みや状況報告を説明しています。現在は対面での開催ですが、参加できない家族などは書面にて意見等を聞いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員が出席して、2か月ごとに開催している。 ・家族から、以前よりイベントが増え事業所を訪問しやすくなったとの意見が出された。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	瀬谷区地域密着型サービス会が開催されるようになりましたが、参加できていない状況です。高齢者支援課・生活支援課の担当者様と連絡を取り合っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・区の高齢障害支援課とは、介護保険の手続き時に情報交換し、生活支援課とは、利用者の現況確認で来所時に相談している。 ・横浜市グループホーム連絡会に加入し、情報を得るようにしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しています。今年度は勉強会の委員会を5月8月11月に開催し、身体拘束等の適正化の為の研修を6月10日に開催。 玄関のカギは施錠していますが、要望があった場合は開錠しています。	・身体拘束廃止委員会を2か月ごとに開催し、身体拘束の弊害や身体拘束にあたる具体的な事例を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・研修を年2回開催し、研修終了後に理解度テストを実施している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しています。今年度は勉強会の委員会を5月8月11月に開催し、高齢者虐待に関わる研修を7月1日に開催。	・虐待防止委員会を2か月ごとに、職員の研修を年2回開催し、高齢者虐待防止法に関する理解と順守に向けた取り組みを行っている。 ・管理者は常に虐待防止の徹底を伝え、不適切な対応があれば、その場で注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談があった場合は対応できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に基づき、口頭で十分な説明を行っています。改定があった場合には、ご理解・ご納得を得ています。常に最新の契約書・重要事項説明書を掲示しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明確にしています。運営推進会議で伺い、面会時には職員から声を掛け、状況説明を行い意見等を伺っています。ご利用者様には日々傾聴し、記録や申し送り等により、職員間で情報共有を行っています。	・利用者の要望や意向は日常の会話、表情、行動から把握し運営に反映している。 ・家族との交流を増やそうと、運営推進会議開催日に家族会と行事を同時に開催したところ、15人の家族の参加があり、得た意見・要望を運営に反映した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話や職員会議等で意見を言いやすい環境作りを心掛けています。また、年2回の個人面談を行い、意見・提案・要望を聞き検討し運営に反映しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から職員とのコミュニケーションを図るように心がけ、何でも言える環境を作っている。 ・職員からの意見や要望は、個人面談や会議の場、日常業務を通じて聞き、運営に反映している。 ・各行事は、担当職員が中心となり企画し実施している。 	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握、勤務調整を行い、個々の得意分野を見つけ出し、役割分担をしやりがいをもって働ける様に、また、向上心をもってもらえる様に環境作りに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者は年2回人事考課を行い職員の成果や努力を評価している。 ・管理者は職員の得意分野を活かした役割分担を決めたり、また勤務時間帯の希望を取り入れたりして、働きやすい職場環境作りに努めている。 	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修があり、参加の調整を行っています。また、管理者自らが社内研修の講師となりケアリーダーへの講師研修も行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人で人材育成とキャリアアップ対策を行っている。管理者は職員に研修参加を奨励し、人材育成に取り組んでいる。 ・介護福祉士実務者研修、介護福祉士等の資格取得支援制度がある。 	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	瀬谷区で行われる連絡会・研修に参加し、ネットワークづくりをしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に、ゆっくりとお話できる時間を設け、要望・困っている事・不安な事・体調等を伺い、安心して頂けるように配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査時にお話を伺い、不安・心配事・困っている事・要望等をお伺いしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査書を、全職員が情報を共有し、1ヶ月間は暫定のケアプランにて、どのような支援が必要かを見極め、カンファレンスし対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様に寄り添い、困っている事や想いを傾聴し、理解共感する事で関係を築き、その方に合った支援を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話を利用し、常に状況や状態説明を行い、お話しする時間を設けています。毎月のひとこと通信にて、ご利用者様の様子・状態をお伝えしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があった場合は、事業所の電話を使用して頂いております。面会に来られた際は、お話しがゆっくりと出来るように、コミュニケーションがとれるよう、環境を整えています。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートや生活記録から馴染みの人や場所の情報を得て、職員間で共有し、日頃の会話で話題にしている。 ・友人の来訪が多いが、家族の了解を得てから面会してもらっている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性を考慮しております。談話やレクリエーションで関りが持てるように、お互いの生活を支え合うように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた書類や情報を提供し、今までと同様な生活が継続できるように支援しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、思いや意向の把握を行っております。伝えるのが困難な方に関しては、表情や仕草で想いを汲み取り、職員と話し合っています。	・利用者の思いや意向は、日々の会話や表情、仕草から把握している。必要に応じて家族からも情報を得ている。 ・利用者の要望で、季節感を感じられる作品を利用者と職員で作り、リビングや廊下に展示した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時に、ご利用者様・ご家族様より情報をお伺いし、実態調査票にて職員間の情報共有を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・申し送り・健康管理表の記録により、心身の状態を把握し、職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様からのご意向を確認し、アセスメント・カンファレンスを行い、どのような支援を必要としているか見極めてケアプランを作成しています。また、心身の状況変化があった場合には、介護計画書を都度変更しています。	・アセスメント、モニタリングの結果をベースに、カンファレンスを行い、本人・家族の意向に医療関係者の意見を入れて、介護計画を作成している。 ・6か月ごとに作成する介護計画は3か月ごとに見直し、心身に変化があった場合は都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を活用し、ケアプランに沿った支援が出来ているか、ナンバリングを行って実績・結果・不足しているニーズがないかを見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のリハビリマッサージ・シニアセラピー等、ご要望があった時には個別で対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売（セブンイレブン）・ヤクルトの訪問販売・地域の美容室・地域のお弁当屋さん・地域の和菓子屋さんを利用しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご利用者様・ご家族様への説明を行い、納得・同意の上、事業所の訪問診療を利用して頂いています。必要に応じて医療機関のご案内もさせて頂いています。	・利用者、家族の同意を得て、協力医療機関の医師による訪問診療を月2回受診している。 ・緊急時にそなえて24時間オンコール体制をとっている。 ・週に1回医療連携看護師が相談や健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携体制看護職員の訪問により、医療連携看護師連絡記録を用いて、健康管理・相談等を行っています。また必要に応じて訪問看護への利用を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院・ご家族様と連携を取り合い、看護サマリー等で情報共有を行っています。また、職員による面会にて入院中のご様子の把握、退院に向けてご家族様・医師とムンテラを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明しています。都度必要に応じた対応をしています。	・契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」の説明をしている。 ・重度化した場合は医師、家族、事業所と話し合い同意書を取り交わし看取りプランに基づき支援している。日々の状況を随時家族に連絡している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを導入しています。また、消防署による心肺停止・AEDの使い方等の研修を受けています。マニュアルもあり、すべての職員に周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員に避難所を周知し、近隣職員への協力を仰いでいます。防災時の備蓄の用意を行っています。消防署の指導の下、昼間・夜間想定避難訓練を行っています。	・夜間想定を含む避難訓練を年に2回開催し、内1回は消防署員が立ち会っている。 ・近隣にある「介護老人福祉施設ラペ」と災害時の協力関係にある。 ・業務継続計画の研修と訓練を行っている。	職員だけの避難誘導等には限界があります。地域住民と連携を図り、協力関係を築いていくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に合わせた声掛けを行い、排泄や入浴等ドアやカーテンを閉め、プライバシーに配慮しています。	・入職時に接遇、プライバシーの確保について研修で学んでいる。 ・一人ひとりの個性や人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。特に排泄介助や入浴時は羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択・決定が出来る場面を作り行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちなどに配慮し、その方に合ったペースで過ごして頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂いたり、紙を梳かして頂いています。今まで使用していた化粧品等がある場合は、継続して使用して頂いています。また、外出時には化粧品や衣類などを購入しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状態により、出来る範囲で手伝って頂いています。行事食の際は事前に希望を聞いて、希望を取り入れたメニューを提供しています。ご自分でいつまでも食事が食べられるように、姿勢や食事形態を工夫し支援しています。	・利用者の希望を取り入れた季節感のあるイベント食を月に1回開催している。敬老の日には出前のお寿司を楽しんだ。今年のクリスマスにはビュフェスタイルを企画している。 ・利用者は下膳やお盆拭きなどできることを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・食事形態・好み等の把握を行い、その方の状態に合わせて食器やコップ等を変えて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っています。ご自身で困難な方は、歯科衛生士指導のもと介助を行い清潔を保っています。歯科衛生士が週1回口腔内の状態観察・口腔ケアを行ない、必要に応じて歯科医師が診察・治療を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄（排尿排便）パターンを把握し、お気持ちを配慮しながら定期的にお声掛けを行い、排泄誘導・自立支援を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況により自尊心に配慮した言葉かけを工夫し、トイレでの排泄を大切にしている。 ・本人の残存能力を見極め、着脱、立ち座り時は過剰な介助はせず、生活リハビリと考え、できることはやっってもらい自立支援をしている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により排便の確認を行っています。体操を毎日行い、水分を多めにとって頂く等の自然排便を促す取り組みを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	いつでも入浴が出来るようにしています。入浴前に必ずバイタル測定を行い、その方の身体状態に合わせた入浴の支援を行っています。入浴剤を使用し、楽しんで入浴出来るように工夫しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・週に2回以上入浴をしている。利用者の身体状況により、シャワー浴や清拭を行っている。 ・ヒートショック対策として、浴室にパネルヒーターを設置している。 ・職員と1対1の空間をゆっくり話せる機会として会話を楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、無理なく自由に休んで頂けるように、お声掛け・介助を行っています。居室に関しては、一人一人に合わせた照明や温度の調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の都度、薬剤師が薬を持参し、用法・用量についての説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じた役割を持って頂けるように、食器拭き・洗濯畳み・ゴミ箱作り等で支援しています。お好きな事を把握し、レクリエーションとして楽しんで頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合った外出支援を行っています。散歩でジュースを買いに行く事や通院ついでにショッピングを楽しまれています。重度の方に関しては、駐車場やベランダを使用し、外気浴や散歩を行っています。	・利用者は日常的に駐車場で外気浴をしたり近隣を散歩したりしている。近くの八幡神社には散歩の他、花見、紅葉狩り、初詣に行っている。境川沿いの花見にも行くことがある。 ・家族と買い物に行き自己選択で服の買い物を楽しんだ利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトや移動販売（セブンイレブン）が来た時は、職員付添のもと、お好みの物を購入して頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、いつでも電話や手紙のやり取りが出来るようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、季節に合わせたレイアウトをご利用様と一緒に作成し飾っています。	・フロアは清掃が行き届き、整理整頓された居心地の良い安心感のある場所になっている。 ・職員との共同作品である花の壁飾りや貼り絵は季節感をだしている。 ・日中は多くの利用者がトランプや唄を歌ったりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やお茶の時間以外は、お好きな場所で過ごして頂いています。ソファを設置し、ご自由に過ごして頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある物や使い慣れたものを持ってきて頂き、入居前と生活環境が少しでも変わらないように、安心して居心地よく過ごして頂けるように工夫しています。	・居室には、洗面台、エアコン、防炎カーテン、クローゼット、整理ダンス、寝具一式が設置してある。 ・利用者は思い出のある使い馴れた家具や家族の写真、ぬいぐるみを持ち込み、家族と相談して在宅での暮らしに近い配置にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には物を置かないように工夫をしています。		

事業所名	グループホームみんなの家・横浜上瀬谷
ユニット名	2 U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階2階スタッフルームに掲示し、業務の中で実現できるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんに来ていただき、音楽演奏を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症の方への支援・取り組み等の情報を発信しています。また、地域ケアプラザからの依頼で瀬谷第一地区WATボランティアに認知症サポーター育成講座の講師を行い、認知症を理解してもらっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、事業所の取り組みや状況報告を説明しています。現在は対面での開催ですが、参加できない家族などは書面にて意見等を聞いています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	瀬谷区地域密着型サービス会が開催されるようになりましたが、参加できていない状況です。高齢者支援課・生活支援課の担当者様と連絡を取り合っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置しています。今年度は勉強会の委員会を5月8月11月に開催し、身体拘束等の適正化の為の研修を6月10日に開催。 玄関のカギは施錠していますが、要望があった場合は開錠しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しています。今年度は勉強会の委員会を5月8月11日に開催し、高齢者虐待に関わる研修を7月1日に開催。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談があった場合は対応できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に基づき、口頭で十分な説明を行っています。改定があった場合には、ご理解・ご納得を得ています。常に最新の契約書・重要事項説明書を掲示しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明確にしています。運営推進会議で伺い、面会時には職員から声を掛け、状況説明を行い意見等を伺っています。ご利用者様には日々傾聴し、記録や申し送り等により、職員間で情報共有を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の会話や職員会議等で意見を言いやすい環境作りを心掛けています。また、年2回の個人面談を行い、意見・提案・要望を聞き検討し運営に反映しています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況把握、勤務調整を行い、個々の得意分野を見つけ出し、役割分担をしやりがいをもって働ける様に、また、向上心をもってもらえる様に環境作りに努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修があり、参加の調整を行っています。また、管理者自らが社内研修の講師となりケアリーダーへの講師研修も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	瀬谷区で行われる連絡会・研修に参加し、ネットワークづくりをしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に、ゆっくりとお話できる時間を設け、要望・困っている事・不安な事・体調等を伺い、安心して頂けるように配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査時にお話を伺い、不安・心配事・困っている事・要望等をお伺いしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査書を、全職員が情報を共有し、1ヶ月間は暫定のケアプランにて、どのような支援が必要かを見極め、カンファレンスし対応しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、ご利用者様に寄り添い、困っている事や想いを傾聴し、理解共感する事で関係を築き、その方に合った支援を行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話を利用し、常に状況や状態説明を行い、お話しする時間を設けています。毎月のひとこと通信にて、ご利用者様の様子・状態をお伝えしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望があった場合は、事業所の電話を使用して頂いております。面会に来られた際は、お話しがゆっくりと出来るように、コミュニケーションがとれるよう、環境を整えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性を考慮しております。談話やレクリエーションで関りが持てるように、お互いの生活を支え合うように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた書類や情報を提供し、今までと同様な生活が継続できるように支援しております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、思いや意向の把握を行っております。伝えるのが困難な方に関しては、表情や仕草で想いを汲み取り、職員と話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時に、ご利用者様・ご家族様より情報をお伺いし、実態調査票にて職員間の情報共有を行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録・申し送り・健康管理表の記録により、心身の状態を把握し、職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様からのご意向を確認し、アセスメント・カンファレンスを行い、どのような支援を必要としているか見極めてケアプランを作成しています。また、心身の状況変化があった場合には、介護計画書を都度変更しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を活用し、ケアプランに沿った支援が出来ているか、ナンバリングを行って実績・結果・不足しているニーズがないかを見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のリハビリマッサージ・シニアセラピー等、ご要望があった時には個別で対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動販売（セブンイレブン）・ヤクルトの訪問販売・地域の美容室・地域のお弁当屋さん・地域の和菓子屋さんを利用しております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にご利用者様・ご家族様への説明を行い、納得・同意の上、事業所の訪問診療を利用して頂いています。必要に応じて医療機関のご案内もさせて頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携体制看護職員の訪問により、医療連携看護師連絡記録を用いて、健康管理・相談等を行っています。また必要に応じて訪問看護への利用を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院・ご家族様と連携を取り合い、看護サマリー等で情報共有を行っています。また、職員による面会にて入院中のご様子の把握、退院に向けてご家族様・医師とムンテラを行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を説明しています。都度必要に応じた対応をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを導入しています。また、消防署による心肺停止・AEDの使い方等の研修を受けています。マニュアルもあり、すべての職員に周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員に避難所を周知し、近隣職員への協力を仰いでいます。防災時の備蓄の用意を行っています。消防署の指導の下、昼間・夜間想定避難訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用様に合わせた声掛けを行い、排泄や入浴等ドアやカーテンを閉め、プライバシーに配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、選択・決定が出来る場面を作り行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気持ちなどに配慮し、その方に合ったペースで過ごして頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂いたり、紙を梳かして頂いています。今まで使用していた化粧品等がある場合は、継続して使用して頂いています。また、外出時には化粧品や衣類などを購入しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の状態により、出来る範囲で手伝って頂いています。行事食の際は事前に希望を聞いて、希望を取り入れたメニューを提供しています。ご自分でいつまでも食事が食べられるように、姿勢や食事形態を工夫し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・食事形態・好み等の把握を行い、その方の状態に合わせて食器やコップ等を変えて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行っています。ご自身で困難な方は、歯科衛生士指導のもと介助を行い清潔を保っています。歯科衛生士が週1回口腔内の状態観察・口腔ケアを行ない、必要に応じて歯科医師が診察・治療を行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録により排泄（排尿排便）パターンを把握し、お気持ちを配慮しながら定期的にお声掛けを行い、排泄誘導・自立支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により排便の確認を行っています。体操を毎日行い、水分を多めにとって頂く等の自然排便を促す取り組みを行っています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	いつでも入浴が出来るようにしています。入浴前に必ずバイタル測定を行い、その方の身体状態に合わせた入浴の支援を行っています。入浴剤を使用し、楽しんで入浴が出来るように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、無理なく自由に休んで頂けるように、お声掛け・介助を行っています。居室に関しては、一人一人に合わせた照明や温度の調整を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の都度、薬剤師が薬を持参し、用法・用量についての説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じた役割を持って頂けるように、食器拭き・洗濯畳み・ゴミ箱作り等で支援しています。お好きな事を把握し、レクリエーションとして楽しんで頂いています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方に合った外出支援を行っています。散歩でジュースを買いに行く事や通院ついでにショッピングを楽しまれています。重度の方に関しては、駐車場やベランダを使用し、外気浴や散歩を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルトや移動販売（セブンイレブン）が来た時は、職員付添のもと、お好みの物を購入して頂けるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、いつでも電話や手紙のやり取りができるようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように、季節に合わせたレイアウトをご利用者様と一緒に作成し飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やお茶の時間以外は、お好きな場所で過ごして頂いています。ソファを設置し、ご自由に過ごして頂いています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある物や使い慣れたものを持ってきて頂き、入居前と生活環境が少しでも変わらないように、安心して居心地よく過ごして頂けるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線には物を置かないように工夫をしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
みんなの家・横浜上瀬谷

作成日 令和7年1月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	コロナ禍により、地域交流がなくなっている。災害において、職員だけの避難誘導では限界があり、地域住民との連携、協力関係を築いていくことが必要である。	地域住民との交流を増やし、当ホームを地域住民の方たちに知っていただく。	地域のお祭りなどに参加（子供神輿10月）、ホームの夏祭りに地域の方々が参加していただけるようにする。	10か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。